

長友帖

三年七月廿七

三子少時

三子少時

書記友

多升一海

乙第百拾三號

記之海

今般の書は三子少時の書に似て、意は公笑、歳入の以て示す、

キリ、以て定む、凡そ、有、年、中、四、年、迄、了、す、為、便、所、後、事、

幣、ノ、終、老、仍、業、終、了、ト、云、云、所、ス、ル、書、ハ、意、旨、之、由、以、

支示ノ本年及区切之是成ニ取方ハ自前ノ以迄ノ通ノ條ノ  
可也ノ通支示ノ日陸海軍定仕込支使支取ノ際海軍ハ  
十三年下ノ三月より通商経費ハ西平七月より十三年下  
分ノ需物ノ支取ハ自前ノ條ノ以依支取トノ通商切支  
品ハ自前ノ條ノ依前ノ年ノ條

西平十三年下ノ三月。 陸海軍定仕込支取ノ際

吉谷長三郎実支取

付

上申ノ趣ハ作業費ノ分凡定額金満期迄ノ計  
算ヲ以正貨貳萬九千三百圓可相渡候條通常  
経費ニ在テハ正貨同額ノ通貨作業費ニ在テハ  
相當ノ相場ヲ以正貨ニ當ル通貨ヲ返納候儀ト  
相心得更ニ豫算帳取調大藏省へ差出スヘシ  
但十三年四月七日相達候正貨ノ差額交付ノ儀  
十四年度以降相廢止候ニ付右ノ分ハ減額スヘキ  
儀ト心得ヘシ

石 走

大坂友持名簿

但し 七百三十三号 正貨  
百十四号 一括 割  
合あり

付

去年の八月に及ぼすは  
此地の通商を日陸に  
十七年丁の間に及ぼす  
分と需の間に及ぼす  
備へるに依りて  
昭和十三年七月

吉谷大良

上申ノ趣ハ作業費

算ヲ以正貨貳萬カ

経費ニ在テハ正貨

相當ノ相場ヲ以正

相心得更ニ豫算

但十三年四月七日

十四年度以降相

儀ト心得ヘシ



明治十四年二月一日

大政大臣  
三件

開  
抄  
傳

親

一、...

...

...

...

...

...

...

一、...

...

海安三於三日

海安二於三日

海安三於三日  
海安二於三日  
海安一於三日

海安子於三日

海安子於三日

口

海安三於三日

口上

海安二於三日

口上

海安三於三日

海安三於三日  
海安二於三日  
海安一於三日

口

海安三於三日

口上

海安二於三日

口上

海安三於三日

海安三於三日

口

海安三於三日

口上

海安二於三日

口上

海安三於三日

海安三於三日

口

海安三於三日

口上

海安二於三日

口上

海安三於三日

海安三於三日

口

海安三於三日

海安三於三日  
海安二於三日  
海安一於三日

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の  
海受心三言抄卷の  
海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の  
海受心三言抄卷の  
海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の  
海受心三言抄卷の  
海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

海受心三言抄卷の

開封使

此十四年正月... 後... 乃... 〃

... 副 招 使

カ

部号

... 年 月 日 濟

部号

... 年 月 日 濟

... 〃

... 〃

書札

... 〃

乙第百拾田號

... 〃

... 〃

... 〃

... 〃